

2019年
10月号
NO. 0086

カトリック笹丘教会 教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
Tel761-4504 fax761-4524
広報委員会

福岡教区 2019年の目標 「信じる喜びから伝える喜びへ」

普段着の福音宣教



主任司祭 遠山満

教皇フランシスコが、今年の10月を「福音宣教の為の特別月間」とされた事を受け、笹丘教会でも、先日の拡大信者会の折り、福音宣教に関して、どのような取り組みをすれば良いかについて話し合う時間を持ちました。

話し合いの中で出てきた意見の一つは、ミサの中の記念唱、聖変化の後、「信仰の神秘」と司祭が唱えた後の文言を、今の「主の死を思い、復活を称えよう、主が来られるまで」から、別の選択可能な文言、「主の死を仰ぎ、復活を称え、告げ知らせよう、主が来られるまで」にしてはどうかと言う意見でした。何故なら、その文言の中に、「告げ知らよう」という表現があるので、宣教の為に相応しいのではないかと言う事でした。

確かに、私達が何かを告げ知らせると言う時、私達は知っている事を伝えます。ただ、「知っている」と言う時、ロマンス語系の言語では、「知的に知っている」場合と「体験的に知っている」場合との動詞は区別されます。私達は、どちらを告げ知らせようとしているのでしょうか。双方共に告げ知らせる必要があるのですが、私達にとって、より重要なのは、イエス様を体験的に知って、告げ知らせる事ではないでしょうか。そのような体験なら、自分の言葉で告げ知らせる事ができるからです。只その為には、毎日の生活の中で祈りが必要です。祈りの生活を通して頂いた救いの体験を、周囲の人々に伝えるのです。

先日の拡大信者会の時、私の頭の中に浮かんで来たのは、以前、今田神父様が何処かの講演で話されたテーマでもある、「普段着の福音宣教」と言う事です。話し合いの中で、何方かが言及されましたが、福音宣教と言う時、私たちはしばしば、大上段に構えがちです。けれども、福音宣教は元来、自然な形でなされるべきものではないでしょうか。

熱心な信者は、教義の説明よりも自らの日常生活を通して、神と正しい生活の必要性を、確信をもって隣人に語ります。誠実な信者は、隣人にキリストを伝える為に、あらゆる手段を用います。物静かな語り掛け。愛情に満ちた仕草。利己的でない形での他者への関心。これらは、著名な神学者による一連の説教より効果があります。

私達の隣人に、日常生活の場で、私達にできる形で、キリストを伝える為の工夫をして参りましょう。



「あなたに、話がある。」

パパ様が日本という小さな教会のために来られます。ポスターには「あなたに、話がある。」と書かれています。わざわざ、わたしに、わたし

たちに話すためにフランシスコ教皇様は来られるのです。

そして、テーマは「すべてのいのちを守るため」

すべての『いのち』について考えてほしい。日本には守られていない『いのち』はないですか、と問われています。

今の日本をみると少子高齢化のもとでの孤立や孤独、若者の自死、貧困や格差社会、難民・移住者の問題、外国人労働者問題、非正規労働者の問題、児童虐待、自然破壊、環境汚染、福島原発事故、等々考えてみると私たちは『いのち』を脅かす世界に生きていることに気づかされます。

私たちの社会は神から離れていく道を選択し続けているように感じられます。

幸いにも10月は「福音宣教の特別月間」です。「ともに喜びをもって伝える教会へ」という司教団の呼びかけにこたえながら、教皇様の来日をスーパースターの来日

という一大イベントに終わらせないためにこころの準備をしましょう。日本の司教団はまた前述の呼びかけでこうも述べています。教皇来日を「神の恵みの風」と受けとめましょうと。

神の恵みの風が日本中に吹き渡りますように。

**ローマ教皇、
38年ぶり
来日決定。**

東京・広島・長崎
11月23日(土)~26日(火)

信徒会長 川原義広

来日テーマ
『すべてのいのちを守るため』
PROTECT ALL LIFE

「レジオマリエ」をご存じですか？

第2回

今回は、レジオマリエの成り立ちについて「レジオマリエ手引書」と、「レジオマリエ福岡クリア60年史」をもとに、紹介させていただきます。

1. 名称と起源

レジオマリエは、カトリック教会の承認を受けた信徒使徒職団体の一つです。

キリストの取り次ぎ者とよばれる聖母マリアを中心に集まり、マリアと共にキリストへの従順と愛を、勇気をもって実践しようとする信仰共同体です。

その集まりは、1921年9月7日(聖マリアの誕生の祝日の前日)、アイルランド・ダブリン市で始められ、最初、「あわれみの聖母会」とよばれました。ヴィンセンシオ・ア・パウロ会会員であったフランク・ダフ氏は、この会の人たちと共に活動しているうちに、「あわれみの聖母会」へ移り、その後、1925年11月彼によって「レジオマリエ」と改称されました。

日本には1948年5月に、長崎の高島教会において、バーン神父(オーストラリア)により設立されました。

福岡地区で最初にレジオマリエが始まったのは、佐賀教会において1948年11月3日のことです。5年という限られた日本での任務を負ってオーストラリアから派遣されたウォルシュ神父により設立され、次に、教区を中心たる福岡に、まだ交通不便な頃に毎週来福され、1949年1月、当時の主任司祭の伊東神父様の協力により、大名町教会にプレシディウム(一つの活動グループの名称)が発足しました。次回は、レジオマリエの目的について書かせていただきます。

祝 初ミサ

ラファエル神父様9月15日

4年前に、笹丘教会で司牧実習されていたメヒア・タデオ・ラファエル神父様(当時神学生)の初ミサが



行われました。

神父様は昨年8月にメキシコにて司祭叙階され、今現在は青森の仙台教区第一地区(弘前・黒石・五所川原教会)担当司祭として、日々宣教に励んでおられます。

御ミサでは、神父様のくっきりとしたお声が聖堂一杯に鮮明に響き渡り、お説教を聞いていると、罪人である私達を深く愛して止まない、イエス様のお言葉として、心の奥深くに静かに染み渡っていく様でした。

神学生時代から、神父様が好まれていたアビラの聖テレジアの言葉——神父様は普段お説教の中でも、この言葉を用いられることがあるそうです——

『何事も心乱すことなく 何をも恐れるな すべては過ぎ去り 神のみ変わらず 忍耐はすべてをかちとる 神をもつ者には 欠けるものなく 神のみで足りる』

ラファエル神父様、お元気で……

離れていても、主において私達はいつも一緒です。

茶
話
会

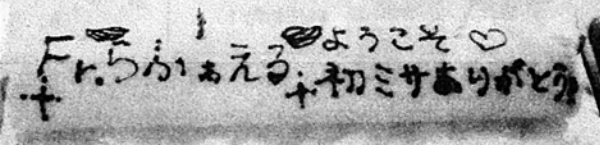


お腹はあまり写さないでね(笑)

久しぶりの再会を皆で喜びお祝いました!!



西新教会からも祝福にみえました!



おかえりなさい、ラファエル神父様

やっと朝夕の空気が秋めいてきた9月の日曜日、ラファエルさんが神父様になられ、笹丘教会へ初ミサに来てくださった。あのとびきりの笑顔で祭壇に立たれると、こちらまで自然と笑顔になる。

神学院の日本語教師をしていた関係で、かつて日本語の勉強をご一緒させていただいたが、遠くメキシコから神様に呼ばれた神父様は当時ご病気をされていた家族のことも気遣っておられ、ともに祈ったりもした。そうやってこれまで神父様は、母国や日本のたくさんの方々のためにも祈ってこられたのだと思う。

祭壇での第一声は、「皆さん、太ったと言われます。でもそれは叙階で神様からも皆さまからもたくさんのお恵みをいただいた結果、心に入りきれなかった愛が、お腹にまで満たされた結果です」。いきなり私たちの笑いを誘った。お説教では、悩み苦しむときも決して一人ではないこと。誰も完全ではない、欠点もあるから、祈り合っていきましょう、と。

なんと力強く、優しく、あたたかく、時にユーモアたっぷりのメッセージをいただいたことか。神父様のお言葉どおり、悩みの日にも絶望することなく、共に祈り合う私たちでありたいものだ。

そして青森で働いておられる神父様のためにも祈り続けたいと思った。(S・A)



敬老会 9月29日!

敬老祝賀会
ヒルデン神父様誕生日
おめでとうございます



気持ちを込めた
おもてなし
会席みたい!



ヒルデン神父様お誕生日
おめでとうございます!
ろうそくの火を消します..



峯さんの頭と
手を使う数々
のゲーム
脳が活性化さ
れました!



笹丘ファミリア合唱団
いつも心に沁みますね!



子供達による
絵本読み「ダル
マさんが」もあ
りました。



編集後記

91歳の母が右足脛を骨折し、手術を受け、3か月ほどの入院生活を送った。その間私は、認知症が進まないよう、毎日母の入院先に行き足裏のツボ押ししたり足の指を動かしたりしていた。「傷口がうまくつきま
すように、神経が活性化されますように」と念じながら...そして、医療技術、スタッフの方のおかげで介助で歩
行もできるようになったけれど、嚥下機能が衰え食事は全介助となった。退院後の家での生活は、乳児を扱う
ような手のかかりようになった。骨折だけはしないようにと気を付けていたつもりだけど、その時の母の骨折は、普
段しないことをふと私が母にさせてしまったために起こった。それはなんだか導かれたような感覚だった。母と濃厚
な時間をたっぷり持つように計られたのではないだろうか...そのために夫のことは後回しになったが、理解してく
れていてありがたかった。大きな痛みを乗り越えた母は今、またも数々のトラブルと戦っている。全ては神に委ね
ます。(J.N)